

6年 3学期【理科】 主な評価規準

江戸川区立第二葛西小学校

単元	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
てこのはたらき	てこには、3つの点(支点・力点・作用点)があることを理解している。	てこの3つの点の距離を変えたときの手応えの違いについて、結果をもとに発表し合い、3つの点の位置と手応えとの関係について多面的に考察している。	てこの規則性について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。
	てこを利用して物を持ち上げるときの力は、支点から力点や作用点までの位置が関係していることを理解している。	考察から、棒を傾けるはたらきの大きさは、「力点にかかるおもりの重さ」と「支点からの距離」の積になることを導き出している。	てこの実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
	てこの腕を傾けるはたらきは、おもりの重さ(力の大きさ)×支点からの距離で表せることを理解している。		
発電と電気の利用	電気は、ついたり蓄えたりすることができ、光、音、熱、運動など様々な形に変えて利用できることを理解している。	友だちの意見を聞いて、自分の予想の妥当性について考えている。	発電・蓄電について調べる実験結果をもとに考察したことについて、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
	身の回りには、電気を光、音、熱、運動などに変えて利用している道具がたくさんあることを理解している。	豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間を電気の使用量に関係づけて考え、豆電球よりも発光ダイオードの方が使用する電気の量が少ないことを説明している。	豆電球と発光ダイオードの点灯時間について、根拠のある予想・仮説を立てて実験し、実験内容と結果とを関係づけて自分の考えをまとめている。
	手回し発電機やコンデンサーを適切に使って実験を行い、その結果を正確に記録している。		
自然とともに生きる	生物は、水や空気を通して環境と関わり合って生きていることを理解している。	既習内容などをもとに、ヒトと環境との関わりについて多面的にとらえ、その関わりをわかりやすくまとめている。	これから私たちがどのように地球環境と関わっていけばよいのか考察し、自分の意見を人にわかりやすく伝えるくふうをしている。
	生物が互いに関わり合って生きていることと、ヒトも環境の一部であることを理解している。	ヒトがどのように地球環境と関わっていけばよいのかを多面的に考え、わかりやすく発表している。	
	ヒトが環境に与えている影響について理解している。		